

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Series 2 Number 1

Feb. 1993

第115回 日本獣医学会に解剖は41演題

日獣のお世話で四月二・三・四日に都市センターで行われる第115回の獣医学会の演題が締切になった。およその演題数は次の通りである。解剖分科会は2日の午前・午後と3日の午後に予定されているミニシンポジウム(別記事)、分科会総会と併わせてぜひ御出席を。

I 解剖分科会 41題

この他オープンセッションと

- II 生理・薬理分科会 91題
- III 病理分科会 67題
- IV 寄生虫分科会 48題
- V 微生物分科会 112題
- VI 家畜疾病 15題
- VII 公衆衛生分科会 28題
- VIII 臨床繁殖分科会 38題
- IX 臨床分科会 99題

解剖分科会ミニシンポ

我が国の獣医学における

解剖学教育の現状と課題

第一回諸外国から何を学ぶか

獣医学教育のカリキュラムについて論議がたかまっているこの時期に、家畜解剖学の教育のあり方を全国共通の問題として考えてみたいと思ひ、その手はじめに外国の実情を最近留学や視察から帰って来られた会員の方々と話をしてみようという企画をたてた。分科会の発表の間に挿入して、なるべく大勢の方々の参加を期待している。

シンポジウムとして以下の方々に依頼した。(敬称略、順不同)

林 良博(東大)、木曾康郎(府大)、橋本善春(北大)、西中川敏

獣医学会

学生会員制度はじまる

獣医学会の一連の改組の中で学生にとって良かったことの一つは会費(年額2000円)を格安にした学生会員の制度がつけられたことである。

既に各教室を通じて手続きがすすめられているが、これから獣医学会で演題発表しようとか獣医学雑誌に論文を投稿する予定の学生諸君にはこの際ぜひ解剖分科会に加入していただきたい。獣医学雑誌の配布はうけられないが同誌への投稿は自由である。

講座紹介

北海道大学

獣医学部家畜解剖学講座

現北海道大学獣医学部家畜解剖学講座は昭和十九年二月、勅令により当時の北海道帝国大学農学部家畜学科に第五番目の講座として設置されて以来、今日まで常に解剖学をこよなく愛する若き学究に開かれており、卒業生は本会員の中にも数多い。主たる研究テーマは一貫して尿管学の分野であり、現在は主に、リンパ組織および免疫担当細胞の分化に関する免疫形態学的研究、二、リン含有細胞の分化とその体内局在に関する実験形態学的研究、が互いに関連しつつ進められている。この

ほか、地域に密着した研究としてエゾシカの特種皮膚腺に関する形態学的研究なども進行中である。

現在のスタッフは教官として杉村 誠教授、(左写真中央) 橋本善春助教授、昆泰寛助手、大学院生として今野明弘(〇〇)、ハイダー・イスマイル(スーダン)、岩見由生彦(〇〇)、研究生としてイスラム・カーン(バングラデシュ)の他、六年目および、六年目および五年目学生各二名が在籍中である。尚、昆 泰寛助手は昨年一〇月より、文部省若手在外研究員としてメルボルン大学医学部に滞在中である。



第98回日本解剖学会
北大学術委員会にて
七月二日(四日)
開会式に杉村誠先生が
特別講演者として江口保樹先生
(内分科会)による家畜解剖学の歴史(写真)

第25回

世界獣医学大会(一九九三・九三・九)開催準備はじまる

横浜ワオタフロント「PACIFIC O YOKOHAMA」

WORLD ASSOCIATION OF VETERINARY ANATOMISTS (WAV A) が構成単位となっている WORLD VETERINARY ASSOCIATION (WVA) の第25回世界大会の日本への招へいは、第24回大会がリオデジャネイロで開催された一九九一年に投票によって決められた。WAV A の一票も日本に投じられた。日本獣医師会は昨年十一月二日に第一回大会運営会を開催したのを皮切りに、プログラム委員会、登録委員会、展示委員会、広報委員会等々を発足させている。

主として臨床獣医師の大会であるので解剖屋の集団である WAVA がどの程度コミットするのか微妙な点があり、また WAVA と当分科会の関係も組織体としてよりも分科会会員の個人加入という形をとっているのが分科会の立場に制約があることを前提として、日本獣医師会に建設的な協力をして行きたいものである。因みにこの大会は、国際小動物獣医学会(会長竹内

啓) 略称 WSAVA が WVA と合同で開催することになっている。

差し当って分科会として対応することはシンポジウムを組織して海外からのシンポジストを確

(会場全景)



保することである。まずシンポジウムのタイトルとしては下記の4項目を申請してみた。これは家畜解剖学講座の主任教授全員と、分科会長経験者、ロンドン、アテネ、モントリオール、モスクワ、リオデジャネイロ、など WVA 世界大会へ出席したことのある方々、に問い合わせた結果である。望月公子、工藤宣夫、西田隆雄、林良

博、杉村誠、橋本善春、山内昭二、岡野真臣、谷口和之、など各大学の諸先生から積極的な御返事をいただいた。

今後 WAVA からの希望を募って、プログラム委員会ではシンポジウムを一つか二つにしほってゆくことになるが、何と云っても海外からの演者が確保できなければ成立しない。海外の研究者と個人的なコネクションをもつて居られる分科会員はぜひシンポジストとして来日されるように御勧誘いただきたい。またシンポジウムのタイトルもまだ最終決定をしたわけではないのでよい御提案があればいまからでもお申出下さい。

—第25回WVA 大会概要—

日時：1993年9月3日～9日
 場所：Pacific Convention Plaza Yokohama
 事務局：(電) 03-3273-2084
 (FAX) 03-3273-2439

参加費：

| | | |
|-------|--------|-------|
| 一般参加者 | 第一期 | 3.6万円 |
| | 第二期 | 5.0万円 |
| | 第三期 | 6.0万円 |
| 学生会員 | 一般の50% | |
| 同伴者 | 2万円 | |

☆分科会として提案したシンポジウムのタイトル

- ① Comparative anatomy of wild animals
- ② Teaching aid in veterinary anatomy
- ③ Preservation of samples for veterinary anatomy

☆要望の多かった追加タイトル

- ④ Immunocytochemistry in veterinary medicine
- ⑤ Neuroscience of veterinary medicine

注 1 WAVA 会長の Dr. Sack (コーネル大) へも提案を要請中である。
 2 Veterinary Education Minimum Requirements について、西田隆雄教授(日大)が、Dr. Sack へコメントをよせられた。

先月25日に東大林良博教授のもとに WAVA の Melvin W. Strunberg さんより連絡があり、全会員(60ヶ国数百名)へ送るメッセージはないかというので①一九九五年の横浜での学会のこと(別記事)②組織学、発生学用語集日本語版の準備状況のこと(同じく別記事)について報告を送った。

ドイツの

獣医解剖学教育に接して

北海道大学医学部

橋本 善春

筆者はドイツ、ベルリン自由大学医学部より招聘を受けたことにより、乳白色の霧にすっぽりと街全体が包まれた冬のベルリンにて、昨年一月より約半年にわたる客員教授として主にウマの解剖学を担当するとともに、解剖学の国家試験試験官として学生に接し、当地の獣医解剖学教育に直接に接する機会を得た。その間の印象を以下に記して、ドイツにおける獣医解剖学教育の一端について報告したい。

ベルリン統一後、旧東西ベルリンを隔てていた「壁」もすでに撤去されたものの、戦後のベルリンにもたらされた複雑な政治的状況により、現在ベルリン市内には二つの獣医解剖学教室が存在する。即ち、旧東ベルリン市街には伝統を誇るかつてのベルリン大学、現フンボルト大学獣医解剖学教室(主任、アベルク教授)が、また旧西ベルリン側には戦後創設されたベルリン自由大学獣医解剖学講座(主任、スロトラス教授)が緑濃い旧西ベルリン市南西部に

位置している。統一後両講座間では互いに教官が往来して授業を分担するなど、急速に交流が開始されている。

ドイツにおける獣医学教育制度のあらましを述べると、獣医学部の修業年限は5年、入学試験は課せられず、獣医学部を擁する各大学（ベルリン、ハノーバー、ギーセンおよびミュンヘン）は国立（州立）であるため、授業料もまた課されていない。ベルリン自由大学獣医学部における入学定員は現在1学年一八〇名である。各学生の進学希望先は、ギムナジウム（中・高等学校に相当）卒業試験（アビトゥア）の成績のみによって決定される。獣医学部への進学希望者が多いため、現在最も進学の難しい学部の一つとなっている。学部専門教育はギムナジウム在学中に動物学、植物学、統計学などを除いて、我国の大学における一般教育科目は既に修得しているため、入学後直ちに解剖学、生理学、生化学などの前臨床教育が開始され、解剖学は組織学・発生学を含めて4学期計2年間にわたり行われる。獣医師国家試験は卒業までに5回に分けて行われ、上記基礎科目の修得とともに、先ず第一回目の国家試験受験資格が生

じ、その合格者のみが次の専門教育課程に進み得る制度となっている。

当地における解剖学教育の特徴について特に印象に残る点について記してみる。

一、先ず解剖学教育に携わる教官と、これを技術的に側面から支えている実習標本や解剖図譜の作製などに係わる多くの専門技



官の存在が挙げられる。このうち教官については、特に若手教官の教授能力の向上を図る教育養成システムが内包されており、助手クラスの教官は教授資格（Habilitation）の獲得を目指して、研究面のみならず講義・実習面においても授業の正確さ、密度、分かり易さ、教材の使い方などを各教授について実

地に研修を重ねてゆく。これによって、彼らの行う実際の授業が分かり易く、かつ緊張感のある授業になっており、大きな効果となって現れているように思われた。滞在中に一人として講義中に颯りを楽しむ学生に遭遇することはなく、顧みてややもすれば詰問く冗長に流れる気配なしとしない自らの授業を反省する良い機会ともなった。

解剖学に携わる教官はドイツにあってもその担当教科の性格故に日々忙しく、親近感を禁じえないものであり、つとに彼等の授業にかける情熱の大きさを知ることとなったが、彼らにざつとばらんに「この国において教授の能力として最も重要なものと思われるものは？」と尋ねれば、すかさず「それは教科書を著す能力である」と答えが返って来るお情状、教授たちはそれぞれ独自の獣医解剖学教科書を著しており、各自の講義・実習を特徴あるものにしていて、これら教科書を上梓するに際してはぜんじゅつこの講座に所属する専門画家などの手になる多様な解剖図譜や写真が盛り込まれて、それぞれ個性豊かなものにまとめ上げられており、我が国においても独自の獣

医解剖学教科書の必要性が感じられる現在、これらの教科書刊行に寄せる彼等の情熱と工夫は大いに参考になるものと思われる。「次号に続く」

歓迎「新入会員」

分科会の新入会員のリスト

（平成四年八月～二月分）が学会本部から届いた。それによると、次の一三名が新しく分科会に人会された。ティウエチ順敬略

- 青山 史子（テオヤマ サトコ） 畜産生物科学安全研 神奈川
- 井上 美紀（イノウエ ミキ） 帯広畜産大学（家畜解剖）
- 太田 智紀 日大獣医学部（獣医解剖）
- 木曾 康郎 大阪府立大学助手（家畜解剖）
- 黒田 真弓 酪農学園大学（解剖）
- 平塚 貴浩 酪農学園大学（解剖）
- 飯子 啓子（イシイ コウジ） 帯広畜産大学（解剖）
- 町田 一彦 東京大学（解剖）
- 三浦 浩史 麻布大学（解剖第二）
- 三百田 匡（ミモタ ケイジ） 帯広畜産大学（解剖）

村上 衣峰子（ムラカミイホコ） 日大獣医学部（獣医解剖）

村野 敬（ムラノ ケイ） 日大獣医学部（獣医解剖）

吉川 哲央（ヨシカワ テツオ） 日大獣医学部（獣医解剖）

なお以下の二名の会員が退会となつてはいるが、なるべく再入会、継続の手続をしていただけ

様に連絡中である。

内田達夫（うちだ たつと） 河合高生（かわい たかお） 杉 雪子（すぎ ゆきこ） 杉本純一（すぎもと じゅんいち） 堀野一郎（ほりの いちろう） 野忠彦（のほただ じゅんいち） 本多俊次（もとむね じゅんいち） 本多誠寿（もとむね まこと） 宮本真理（みやもと まり） 山本由美子（やまもと ゆみこ）

この他、これまで無所属の形で獣医学会に入会しておられた次の三氏は解剖分科会に所属されることになった。

- 田中 慎 東大医科研
- 萬場 光一 山口大学（助教）
- 瀬田 秀茂 科学費研（部長）

また解剖分科会から病理分科会へ所属を変更された会員が一名あった。

佃 良一 武田薬品工業（薬剤安全科）

「獣医組織学用語」刊行まぢか

前号のNEWSLETTERでも紹介したNOMINA HISTOLOGICA VETERINARIA (第二版) の日本語版がようやく刊行される運びとなった。この用語集は現行の解剖学用語集に合冊する予定であったが、

一〇〇頁余になり、実用的にも独立していた方が使いやすいと考えられるので別冊にした。原稿は一九八四年にすでに完成(?)をみていたものであるが、その時の用語委員会委員長であった藤岡俊健前名古屋大学教授にあつたため校閲をお願いした。先生は御定年になられて一年目での仕事をお願いしたことは大変御迷惑だったことと思われ。索引の作製は第一回の解剖分科会奨励賞受賞者の一人である大上美穂会員にお願

した。前号で既報のように中央競馬会の助成を受け、学窓社から発刊するが、非売品として一千部を印刷した。
内容的には未解決の問題点が多すぎた。まだまだ多く残されており、用語集の性格上さう頻りに改訂版を出すことは望ましくないものの、不断に訂正を続けなければならぬ。日本解剖学会も一〇〇周年記念事業の一つとして用語改訂を計画している。家畜解剖学会としても対応する必要がある。これまでに、国際用語委員会、保田幹雄先生(名大)、見上晋一先生(岩大)が活躍され、現在も家畜発生学用語の国際委員会には江口保暢先生が参加されている。解剖学は用語の学問であると言われ、これらと、これらの諸先輩の仕事をしっかり引き継いで行きたいものである。

消息あれこれ

○リヨン大学パロン教授

75歳誕生日に「胸像」設置

来日二回と我が国の獣医解剖学関係者とのゆかりも深い元リヨン大学解剖学教授パロン先生の七五歳誕生日を記念してその高弟であるトゥールーズ大学のClaude



PAVAN 教授の呼びかけでトゥールーズ大学に設置された(写真)。



M.le Professeur Robert BARONE

これはイタリアの彫刻家 Prof. Cesare VINCEZI の作品でボロニア大学の Prof. Ruggero BORTOLAMI によってリヨン大学に寄贈されたものである。なおパロン先生のもとにはかつて望月先生が留学してお

れた。今回の記念誌には望月先生、西田隆雄先生(日大)、保田幹雄先生(名大)、山内昭二先生(府大)らがメッセージを寄せておられる。○昆 泰寛先生(北海道大助)メルボルン大学医学部へ七月迄留学中
○望月公子教授(日大農獣医学部)視学委員に任命される。今年度は岩手大学、岐阜大学の獣医学科を視察の予定とわれている。
○大塚関一教授(鹿児島大学)御退官
鹿児島大学農学部長大塚関一教授は三月末に定年で御退官。三月二日(三時三〇分)最終講義、四月二七日御退官記念パーティー。

〈海外の学会予告〉

- ☆日米合同解剖学会議
1993.3.28-4.1 San Diego, Town and Country Hotel,
- ☆Histochemical Society. 第44回
1993.8.13-14. Bethesda, MD. Hayatt Regency Hotel,
- ☆日米組織細胞化学会
1994.7.13-16. Hawaii, Westin Maui Resort,
- ☆第14回国際解剖学会
1994.7.24-30. リスボン,
- ☆第4回国際解剖学博物館学会議
1994.7.31-8.4. シカゴ,

編集後記

平成4年度も間もなく終りと成る。各大学とも平成5年度の概算要求などに忙しい。獣医学会も改組のために大変なエネルギーを使った年度であった。しかし実態は理事会のそれも執行部だけの改革にむけての努力であったのかもしれない。前号で予告した北大での総会でも殆ど論議もなくシャンシャンと可決された。

北大での学会は従来の型をよぶったシンポジウム中心の運営で新しい獣医学会の方向としてその試みは積極的に評価されているようである。従来の分科会の枠にとらわれず、シンポジウムたちが今後学会活動の核になって努力されることを期待したい。解剖分科会ではシンポジウムを組織できなかった。次回には海外の獣医解剖学教育の紹介を中心にシンポジウムを企画し、林良博教授を中心に最近海外出張した会員各位に話題提起を依頼する事になった。
世に3号雑誌と言って3号きりで廃刊になる例が多いといわれる。三代目に破産となる企業のようなものだが、このニュースレターは少なくとも4号までは続く。
ニュースを御寄稿願いたい。
(編集子)